

期 日 2013年10月19日（土）～20日（日）前夜発 参加・埼玉労山会員19名
 初めて労山の災害支援に参加して、宮城県石巻谷川浜（やがわはま）という所へ行ってきました。

10月18日夜22時東上線「ふじみ野駅」西口から各会の参加者が1台のバスにそれから南浦和駅西口へそこでまた他の会の人達が乗り19名で23時頃出発しました。東北自動車道から仙台を通り、石巻ICを出て谷川浜についたのが19日6時ごろでしょうか。テレビなどで津波の様子は何回も見ていましたが、実際に現地に来てみて、もう三年近く過ぎているのに、まだどこも手が付けられてなく少しもよくなっていないなあ・・・とショックでした。着いた現地には、



前は家が立ち並んでいたであろう辺り一面広野原になっており、その中にポツンとガソリンスタンドが立っているだけで、道路が一本通っており、私たちはその横の所で作業をしたのですが、小屋が2つ建っており、はるか向こうの方には海が広がっていました。地元の馬場さんというホヤ養殖組合副組合長の方が朝水揚げしたばかりのさんまを沢山もってきて、早朝なのに外の水道の所で千葉の方達とさんまを開いてお刺身を作って下さりご馳走になりました。とても脂がのっていておいしかったです。8時30分頃お手伝いする所の渥美さん（宮城県漁業組合谷川支所運営委員長）と奥様が見えられ作業の説明をして頂き、ホヤの養殖に使うという牡蠣殻を使えるものと使えないものを選別する作業とその分けた牡蠣殻に、小さなドリルで真ん中に穴を開けそこに紐を通す作業と3組に分かれてしました。10時頃はお茶やお菓子、みかんなどをいただいてお休みし、お昼休みをはさんで3時頃までお手伝いをして渥美さんご夫婦と別れを惜しんで、私達はバスに乗り今夜の宿へ、途中牡鹿のれん街に行き、皆海産物などを買物する。民宿「あたご荘」は海の近くにあり、宿は流されたが大工さん達など多くの人達がボランティアできてくれて宿がようやく出来上がったという。木の香りも新しい民宿でお料理も沢山、海の幸が食べきれないくらいありおいしかった。今日1日寒いかなと思ったが、あまり寒くなくよかった。食事のあと千葉県連の方達が宿泊している近くの「後山荘」に交流会があるということで皆で行く。今日お世話になった渥美さんや馬場さん達漁師さん達がいらして、少しずつだけど海の仕事もできるようになってきつつあるというお話を聞きました。そして渥美さんの奥様のきれいな日本舞踊も見せて頂きました。20日はあたご荘八時頃発で女川町の被災地を見せて頂き、先生や児童74名が亡くなった大川小学校にも行きました。まだ学校はそのまま残されており、多くの人達が手をあわせに訪れていました。埼玉労山の方達も多くの人は何回も被災地に支援にきているので、バスで

通るとあああの辺りは、この前きた時より少しはよくなっていると皆さん話していました。南三陸町の方でも、町が無くなり広い野原となってその中にポツンと赤茶けた3階建ての鉄骨だけ残っている元防災センターなど、まだまだ沢山の被災地を見せて頂きましたが、どこもまだまだ手のつけられていない所が多く胸の痛む思いでした。そうしてお昼は南三陸さん(・・・)さん(・・・)商店街で皆とおいしく頂きました。お昼をすませて外に出ると雨が降ってきました。今回いろいろお世話してくださいました千葉労山の方々本当にありがとう御座いました。

